

株主のみなさまへ

第65期 営業のご報告

2010年4月1日～2011年3月31日

HOUSE FOODS REPORT



おいしさとやすらぎを

 **ハウス食品**



企業理念

食を通じて、
家庭の幸せに役立つ

コーポレートメッセージ

おいしさやすらぎを

株主のみなさまには日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
2011年3月期の事業の概況をご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

健康食品事業や海外事業が順調に推移したものの、ミネラルウォーター事業を売却したことなどから、減収となりました。

当連結会計年度におけるわが国の消費環境は、デフレの長期化に伴う生活防衛意識の高まりから、一年を通して節約志向、選別消費が続く厳しい状況にありました。

当社グループは、第三次中期計画の2年目にあたる当連結会計年度を、中期計画の成否を決める重要な1年と位置づけ、「利益重視」「新しい需要の創造」の2つの施策を軸とした企業活動を推し進めてまいりました。

売上面におきましては、健康食品事業において、「ウコンの力」をコアとするハウス食品㈱、「C1000」をコアとする子会社ハウスウェルネスフーズ㈱の両社とも順調に推移しましたほか、海外事業も円高のマイナス影響はあったものの、好調な売上を示しました。また、地産地消の活動と連動した“CURRY ACTION NIPPON”や、映画タイアップ企画などのプロモーションを積極的に展開し、市場活性化を図りました。しかしながら、昨年5月にミネラルウォーター事業を売却したことや、昨夏の猛暑の影響を受け主力製品の夏場の売上が伸びなかったことなどから、当連結会計年度の連結売上高は2,167億13百万円、前期比1.8%の減収となりました。

継続的なコストダウン活動や、健康食品事業の収益基盤が強化されたことなどから、増益となりました。

一方利益面では、成長分野に積極的なコスト投下を行いました。引き続きコストダウン活動に注力したことに加え、健康食品事業の収益基盤が強化されたことなどから、連結営業利益は120億69百万円、前期比10.1%の増益、連結経常利益は130億31百万円、前期比6.9%の増益となりました。連結当期純利益は、震災関連費用や投資有価証券評価損などの特別損失計上がありましたが、52億52百万円、前期比9.0%の増益となりました。

安定的な配当に加え、自己株式の取得・消却を実施いたしました。

当社グループは、株主のみなさまへの利益還元を経営上重要なテーマの一つと位置づけ、業績や事業計画などを総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本方針としております。当期末の配当金につきましては、1株

につき11円とし、中間配当金の11円とあわせまして、年間計22円とさせていただきます。また、株式市場の状況を鑑み、3百万株の自己株式を取得するとともに、12月に411万株強の自己株式の消却を実施いたしました。

当社の社会での役割を全うすることにより、日本経済の活性化に微力ながら貢献してまいります。

本年3月に、私たちが経験したことのない大地震が東日本を襲いました。被災されたみなさまには心よりお見舞い申し上げます。

2012年3月期においては、この未曾有の大震災に加え、原子力発電所事故の影響が懸念されるなかで、資源相場の上昇や為替相場の変動などもあり、景気の先行きについては引き続き不透明な状況が予想されます。生活関連業界におきましては、お客さまの生活防衛意識が高まり、商品に対する厳しい選別志向が続く環境下において、震災による消費マインドの変化や原材料価格の高騰が、企業業績に一段と影響するものと思われます。

当社グループにおきましては、このような状況のもと、「食を通じて、家庭の幸せに役立つ」という企業理念に定める当社の社会での役割を全うすることにより、日本経済の活性化に微力ながら貢献したいと考えております。

国内においては、カレー・シチュー・スパイスなどの主力事業について、トップメーカーとして市場活性化のための積極的なプロモーション活動を展開するほか、製品価値向上につながる生産設備の増強にも取り組んでまいります。また、子会社ハウスウェルネスフーズ㈱を含めた健康食品事業については、成長分野として更なる事業の伸長に注力してまいります。海外においては、米国内でアジア系マーケットを中心に拡大してきた大豆事業について、さまざまな施策を実施し現地への浸透をこれまで以上に進めるとともに、中国での加工食品事業や米国・アジアにおけるレストラン事業の一層の拡大に努めてまいります。また、成長が期待できる東南アジアを中心に、新規市場の開拓に取り組んでまいります。

2012年3月期の業績につきましては、連結売上高は2,170億円(前期比0.1%増)、連結営業利益は130億円(前期比7.7%増)、連結経常利益は143億円(前期比9.7%増)、連結当期純利益は84億円(前期比59.9%増)を予定しております。

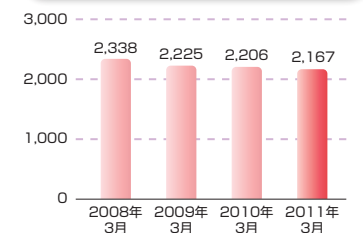
何卒株主のみなさまにおかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2011年6月

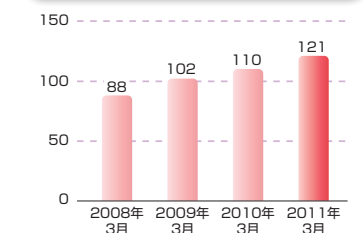
取締役社長 浦上 博史

単位：億円

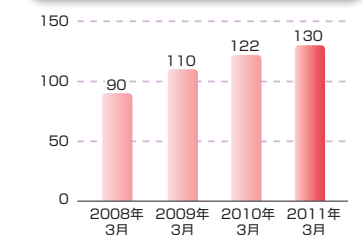
連結売上高



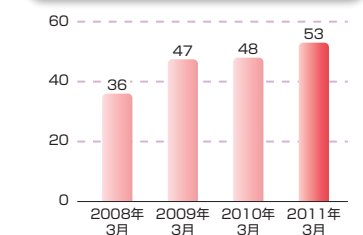
連結営業利益



連結経常利益



連結当期純利益



“事業別営業の概況”は、前連結会計年度まで「食料品」「運送・倉庫業他」の2事業区分で表記しておりましたが、現在取り組んでおります第三次中期計画の事業区分との整合性を持たせるため、当連結会計年度より下記4事業区分に変更しております。

香辛・調味加工食品事業

カレー製品は、猛暑による家庭での調理頻度の減少の影響を受けるなか、地産地消と連動したエリア毎の活動や積極的なキャンペーンなど市場活性化に努めましたことから、主力のルウ製品「バーモントカレー」「ジャワカレー」が前年並みの売上を確保しました。また、低価格帯製品との競合が激化していた「こくまるカレー」と高級カレー「ザ・カレー」をフレッシュアップし、ブランド価値向上に取り組みました。レトルトカレー製品では、「咖喱屋カレー」が前期のインフルエンザ流行による備蓄需要の反動を吸収し、前年の水準を維持しました。



スパイス製品は、新製法を採用した「ねりスパイス」が好調に推移したほか、「洋風スパイス」が引き続きお客さまから大きなご支持をいただき、順調な売上となりました。



シチュー製品は、導入期である秋口まで酷暑が続きましたが、最需要期である年末年始に積極的にキャンペーンを展開したことなどから、「シチューミクス」「こくまるシチュー」が前年を下回りましたものの、野菜の甘みとけ込んだ新製品「ふうふうシチュー」が着実に市場

に定着し、全般では堅調な売上となりました。

カップタイプのスープ製品「スープdeおこげ」は、厳しい市場環境下で苦戦を強いられました。

デザート製品は、ロングセラーの「フルーチェ」が、バラエティ製品を投入し、積極的なプロモーション活動を行った結果、増収となりました。



健康食品事業

健康食品は、市場に著実に浸透している「ウコンの力」について、購買層をより一層拡大すべく、販売チャネルの開拓

に注力するとともに、朝の素早い水分補給に適したウコンウォーター「ウコンの力モーニングレスキュー」や飲みやすいスティックタイプの「ウコンの力顆粒スーパー」を新発売し、シリーズの強化を図りました。また、スパイスを活用した新機能性飲料「メガシャキ」が、高速道路のサービスエリアや受験生をターゲットとした販売促進活動への注力で売上を伸ばしたことから、全体では増収となりました。

子会社ハウスウェルネスフーズ㈱の健康食品事業は、「C1000 ビタミンレモン」のバラエティ製品「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」を新発売したほか、フレッシュアップした「C1000 リフレッシュタイム」が好調であっ



たことなどが寄与し、前年実績を上回りました。

ダイレクト事業では、製品とユーザーサポートがセットになったダイエットプログラム「ニュートリシステムJ-ダイエット」が多様なメディア活用による顧客接点の拡大に取り組みましたが、残念ながら目標を下回る結果となりました。



海外事業

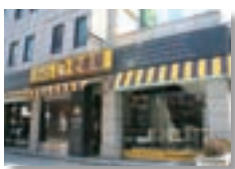
米国の大豆事業は、東部地区を中心に豆腐製品の新規チャネル開拓が進んだことや、現地で受け入れられる豆腐活用メニューの提案などの販売促進活動に引き続き努めましたことなどから、売上を伸ばいたしました。

中国の加工食品事業は、昨年2月に合併事業の見直しを行い、当社が主体となって進めてきたルウ事業に、レトルト事業を統合することで、統一したコーポレートブランドでの展開をはじめ、さまざまな相乗効果が図れました。さらに、現地で親しまれているオリンピック選手を起用した販売促進活動などを通じて、日本式カレーの訴求に努めましたことから、前年実績を大きく上回りました。

○事業の種類別 連結売上高・連結営業利益

事業の種類	連結売上高		連結営業利益	
	金額(百万円)	前期比(%)	金額(百万円)	前期比(%)
香辛・調味加工食品事業	128,590	99.9	11,540	100.5
健康食品事業	49,605	103.8	199	—
海外事業	10,521	105.2	350	83.8
運送事業他	27,997	82.0	△ 16	—

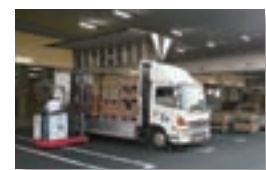
カレーレストラン事業は、景気回復傾向にある米国で売上が順調に推移したほか、中国でも既存店が引き続き高いご支持をいただきました。また、台湾・韓国で新規出店を進めた結果、各国の事業がいずれも増収となるとともに、黒字化も達成できました。



運送事業他

子会社ハウス物流サービス㈱の運送・倉庫事業は、当社ミネラルウォーター事業譲渡に伴う影響がありましたが、グループ外企業の物流業務の受託拡大が好調に進みましたことなどから、前年実績を上回りました。

当セグメントに含めております「六甲のおいしい水」は、事業譲渡を行いました結果、大幅な減収となりました。



ミネラルウォーター事業を譲渡

成長分野へ経営資源を集中していくため、「六甲のおいしい水」ブランドで展開していたミネラルウォーター事業を、5月31日付でアサヒ飲料(株)様へ譲渡しました。

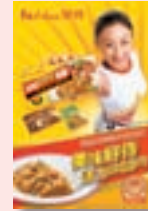
「C1000ビタミンレモンコラーゲン」新発売

「C1000ビタミンレモン」シリーズに、コラーゲンを加えた飲料が新登場
[ハウスウェルネスフーズ(株)]



中国カレー事業 中国国家体育総局訓練局との共同で プロモーション活動を展開

昨夏に、中国国家体育総局訓練局とタイアップし、現地で親しみのあるオリンピック選手を起用したプロモーション活動を実施することで、ブランドの定着と日本式カレーの浸透に努めました。[上海ハウス食品(有)]



「ふうふうシチュー」新発売

野菜の甘みがとけ込んだ、お子さまがおかわりしたくなるルウタイプのシチュー



「おうちチャウダー」新発売



“みんなを元気にする魔法キャンペーン”展開

ディズニーとの全面タイアップによるハウスならではのプレミアムキャンペーンを7～10月に展開し、ディズニーオリジナルグッズをプレゼントしたほか、東京ディズニーリゾート®を満喫しながら、お子さまの思い出に残るミッキー達との特別な体験を提供しました。

自己株式を取得・消却

株主さまへの利益還元策の一環として、11月1日から11月19日に、300万株の自己株式を取得しました。あわせて12月28日に、過去に取得した自己株式を含め、4,113,312株を消却しました。

“東大阪カレーパン会”参画

当社発祥の地、大阪府東大阪市において、元気なまちづくりとカレーパンの普及振興をめざして発足された「東大阪カレーパン会」にオブザーバーとして参画。メニュー開発等で協力してまいります。



マスコットキャラクター
カレンちゃん ラグボー君

「ニンニクのカスーパー」新発売



「おかず豚しゃぶノンオイルドレッシング」新発売



「ウコンのカ 顆粒スーパー」新発売

「ウコンのカ スーパー」に携帯に便利な顆粒のスティックタイプが新登場



“食と農と環境の体験教室”開催

食の原点である農業を通じて、お子さまを中心にご家族で食の大切さ、自然環境の大切さについて学んでいただく年3～4回の継続型の教室です。2009年から実施しており、2010年は、全国6カ所で開催しました。



“CURRY ACTION NIPPON”展開

農林水産省が食料自給率の向上をめざして展開している『FOOD ACTION NIPPON』に賛同し、地方自治体や生産者団体と共同で、地元の農畜水産物を使ったご当地カレーを全国各地で考案。カレーの新しい魅力をご提案するとともに、カレーを通じた特産物や地域活性化をアピールしました。



1～3月に全農ちば、千葉県庁との共同取組を実施

海外豆腐事業の展開

～日本の“Tofu”文化を欧米に～

アジアを中心に親しまれている豆腐(“Tofu”)は、タンパク質が豊富で、健康的な食品として、肉食が中心の米国民の間にも徐々に浸透しています。特に1999年にFDA(米国食品医薬品局)が大豆の健康機能、とりわけ心臓病の予防に有効であることを発表したことで、大豆から作られる豆腐の健康的なイメージは一段と広がってきております。

このような米国内において、当社子会社のハウスフーズアメリカCorp.は、1983年より約30年近くにわたり、豆腐製品の製造・販売を行っております。当初は西海岸を中心とした展開でしたが、低温加熱殺菌技術により賞味期限を65日とする製品を開発したことや、2006年にニュージャージー州に新工場を稼働させ、製品供給能力を大幅に増強したことで、中東部にも販売エリアを広げ、現在では、米国内でのTofu製品販売数量No.1企業となっております。また、米国以外の国々にもTofuの良さを知っていただくよう、2007年には、欧州市場への輸出を開始いたしました。



カリフォルニア工場

○生産数 15.9万丁/日
○敷地面積 20,590㎡
○総床面積 11,960㎡



ニュージャージー工場

○生産数 8.5万丁/日
○敷地面積 40,467㎡
○総床面積 9,609㎡

ハウスフーズアメリカCorp.では、米国のお客さまの食習慣やお好みにあわせて、5段階の固さのTofuを取り揃えています。豆腐ステーキや豆腐サラダ等、比較的固いTofuを使ったメニューが人気です。

現地の食文化にマッチしたおいしい食べ方をご提案することで、海外にTofu文化を広げていきたいと願っています。



パッケージに固さを表示しています



トップインタビュー

1983年に米国に進出して以来、Tofuの販売は着実に拡大しています。ただ、米国の方も食に関しては保守的で、日常メニューというところまでは、まだ浸透できていません。「おいしいから」というよりも、「健康に良いから」という意識が強いようですね。

これからも、もっと多くのお客さまにTofuを食べていただくために、“健康”と“おいしさ”を軸とした色々な提案を通じて、Tofuの魅力をお届けしたいと考えています。例えば当社では、「Tofu Shirataki」という豆腐を原料としたしらたき製品が好評ですが、米国の方はパスタ感覚のメニューとして、この製品を愛用されています。このような、米国のお客さまの心を掴んだメニュー提案を続けるためには、米国の食文化に根気強く交わっていく努力が必要と思っています。



Tofu Shiratakiのパスタ

当面は米国内でのTofuの販売に注力することが第一ですが、Tofuだけでなく、肉やチーズの代替としての大豆関連製品の開発も視野に入れています。また、既に進出した欧州エリアはもとより、近い将来には、Tofuを経験したことがない世界中の人々に、Tofuをご紹介したいですね。

海外で多くの方がTofuを食べるようになれば、現在とは比べものにならない大きなマーケットになります。いつの日か、米国でも日本の冷奴のような誰でも知っていて、どこでも食べられる、そんなメニューが浸透していることを思い描きながら、今日も米国でTofuの魅力を発信しています。

ハウスフーズアメリカ Corp.
取締役社長 名武 茂



TOPICS 米国映画『カンフー・パンダ2』と大々的タイアップ!

2008年に公開され、全世界で大ヒットを収めたアニメ映画『カンフー・パンダ』の続編、『カンフー・パンダ2』とタイアッププロモーションを展開。本年4～5月に、全米に新聞折込広告を配布したほか、ニューヨーク地区やサンフランシスコ地区で街頭広告を実施しました。さらに、主人公の『ポー』を製品パッケージに採用し、店頭を華やかに盛りあげ、「Tofu」の認知度アップに努めました。

※『カンフー・パンダ2』は、日本では8月19日から全国で公開予定



新聞折込広告

連結貸借対照表

単位:百万円

	当 期 (2011年3月31日現在)	前 期 (2010年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	99,644	102,507
固定資産	129,166	129,420
有形固定資産	53,860	62,808
無形固定資産	4,562	9,411
投資その他の資産	70,745	57,201
資産合計	228,810	231,927

負債の部

流動負債	37,755	39,276
固定負債	9,757	10,023
負債合計	47,512	49,299

純資産の部

株主資本	179,841	180,985
資本金	9,948	9,948
資本剰余金	23,868	23,868
利益剰余金	146,026	148,494
自己株式	△ 2	△ 1,326
その他の包括利益累計額	1,080	1,290
その他有価証券評価差額金	2,836	2,582
為替換算調整勘定	△ 1,756	△ 1,292
少数株主持分	377	353
純資産合計	181,298	182,628
負債純資産合計	228,810	231,927

連結損益計算書

単位:百万円

	当 期 (2010年 4月 ～ 2011年 3月)	前 期 (2009年 4月 ～ 2010年 3月)
売上高	216,713	220,622
売上原価	116,324	118,622
売上総利益	100,388	102,000
販売費及び一般管理費	88,319	91,036
営業利益	12,069	10,964
営業外収益	1,493	1,321
営業外費用	531	97
経常利益	13,031	12,187
特別利益	191	278
特別損失	3,641	1,825
税金等調整前当期純利益	9,581	10,640
法人税等	4,425	5,796
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 96	24
当期純利益	5,252	4,820

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	当 期 (2010年 4月 ～ 2011年 3月)	前 期 (2009年 4月 ～ 2010年 3月)
営業活動によるキャッシュ・フロー (うち減価償却費)	18,568 (5,704)	15,813 (6,102)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,228	△ 10,129
財務活動によるキャッシュ・フロー (うち配当金の支払額)	△ 6,466 (△ 2,411)	△ 2,771 (△ 2,411)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 353	△ 23
現金及び現金同等物の増加額	1,521	2,891
現金及び現金同等物の期首残高	44,570	41,680
現金及び現金同等物の期末残高	46,091	44,570

貸借対照表

単位:百万円

	当 期 (2011年3月31日現在)	前 期 (2010年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	87,376	88,182
固定資産	143,076	137,890
有形固定資産	30,322	38,116
無形固定資産	1,826	2,549
投資その他の資産	110,928	97,225
資産合計	230,452	226,072

負債の部

流動負債	38,085	35,908
固定負債	3,411	3,196
負債合計	41,495	39,103

純資産の部

株主資本	186,025	184,314
資本金	9,948	9,948
資本剰余金	23,815	23,815
利益剰余金	152,263	151,876
自己株式	△ 2	△ 1,326
評価・換算差額等	2,932	2,655
その他有価証券評価差額金	2,932	2,655
純資産合計	188,957	186,968
負債純資産合計	230,452	226,072

損益計算書

単位:百万円

	当 期 (2010年 4月 ～ 2011年 3月)	前 期 (2009年 4月 ～ 2010年 3月)
売上高	155,136	161,680
売上原価	74,131	77,530
売上総利益	81,005	84,150
販売費及び一般管理費	67,469	71,618
営業利益	13,536	12,532
営業外収益	2,337	1,822
営業外費用	337	168
経常利益	15,536	14,186
特別利益	134	17
特別損失	3,327	1,576
税引前当期純利益	12,344	12,627
法人税等	4,236	5,001
当期純利益	8,107	7,626

新製品

フライパンでパッ! ごちそう蒸し焼きの素

フライパンで蒸して焼くだけ。
忙しいママをサポートする新しい調味ソースです。

お肉と野菜のおかず料理がフライパンで手軽にできる蒸し焼き用調味ソースです。調理中はフライパンを動かす必要がなく、短時間で簡単に作れるうえ、栄養を逃さず、野菜のうまみや甘みを引き出します。ご家族が喜ぶ定番の味付け「特製テリヤキソース」「特製トマトソース」「特製コクみそソース」の3つの味をラインナップ。食材もアレンジできるので、メニューのレパートリーが広がります。



フレッシュアップ

こくまるカレー

発売15周年を迎える「こくまるカレー」がフレッシュアップ。

「こくまるカレー」は、炒め玉ねぎのコクとまろやかな風味が特徴のカレーです。今回、炒め玉ねぎを従来品より増量したほか、パッケージデザインを見直し、おいしさとブランドの魅力の向上を図ります。(炒め玉ねぎは玉ねぎ由来原料を使用)

※「こくまるカレー」は、使用する油脂量を控えながら、おいしさを凝縮し、じっくり加熱したヘルシーな製法「濃縮加熱製法」を採用しています。



その他のこくまるシリーズも揃ってフレッシュアップ

ハウスあいファクトリー株式会社

当社グループでは、従来より障がい者の雇用促進に積極的に取り組んでおり、2009年12月に、障がい者にとって働きやすい施設・環境を備えた、袋スパイス製品の製造や包装加工を行う子会社「ハウスあいファクトリー(株)」を設立しました。同社は、従業員の約37%が障がい者で構成されており、2010年4月には厚生労働省より、ハウス食品(株)の特例子会社*として認定を受けております。障がい者にとって働きやすい職場環境をさらに整備するとともに、障がい者雇用の促進にも引き続き努め、社会にお役に立てる企業グループをめざしてまいります。

※特例子会社…雇用障がい者数等について一定の要件を満たし、かつ施設や設備の整備について特別な配慮を行っている企業として、厚生労働省の認可を受けた子会社

【会社概要】

- 事業内容 香辛料調味料の製造加工ならびに包装加工
- 本社所在地 大阪府東大阪市



生産設備の運転状況などを光や色で認知できるよう、大型のシグナルタワーを設置しています。



業務連絡は、手話で伝えられます。

株式会社ハウス食品分析テクノサービス

(株)ハウス食品分析テクノサービスは、2004年に当社ソマテックセンター(研究所)の食品分析部門が独立し設立された子会社です。残留農薬の混入分析や栄養成分分析のほか、クレーム品の異物特定や混入推定分析など、食品の安全・安心に必要な分析業務を行っております。また、お客さまのご要望に応じ、製品クレームや生産トラブル低減のための品質管理・設備管理のコンサルティングを実施しております。さらに、本年4月からは、食品や水に含まれる放射能分析も開始いたしました。

当社が長年培ってきたさまざまな技術・ノウハウを活用し、これからもご依頼先の安全で価値ある商品作りをサポートしてまいります。

【会社概要】

- 事業内容 食品および食品素材の試験分析ならびに品質管理等に関するコンサルティング業務
- 本社所在地 千葉県四街道市



食品中から油脂を抽出し、濃縮操作をしています。



異物として発見された毛髪に食品成分がどの程度浸透しているか分析しています。

会社概要

(2011年3月31日現在)

- ◆創業年月日 1913年11月11日
- ◆設立年月日 1947年6月7日
- ◆資本金 9,948,323,523円
- ◆事業内容 食品製造加工ならびに販売、その他
- ◆従業員数 2,155名
- ◆所在地 大阪本社／〒577-8520
大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号
TEL 06-6788-1231（大代表）
東京本社／〒102-8560
東京都千代田区紀尾井町6番3号
TEL 03-3264-1231（大代表）

役員

(2011年6月28日現在)

- | | | | |
|-----------|--------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------|
| 取締役会長 | 小瀬 防 | 常務執行役員 | 野村孝志
田口昌男
工村浩史
東正彦 |
| 取締役社長 | 浦上博史 | | |
| 取締役専務執行役員 | 松本恵司
井上始
広浦康勝 | 執行役員 | 山口守世
一柳和文
青山竜二
坂元竜太
西原弘一
柴原章
小池文
高木敬
巖本一雄 |
| 取締役常務執行役員 | 溝淵寛
藤井豊明
加藤浩 | | |
| 取締役 | 山本邦克 | | |
| 監査役 | 吉村光央
伊藤研三
由本泰正
治郎丸清志
三浦勁 | | |

グループ会社

(2011年3月31日現在)

連結子会社（16社）

●国内会社 ●海外会社

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ●株式会社デリカシェフ | ●朝岡スパイス株式会社 |
| ●サンハウス食品株式会社 | ●ハウスビジネスパートナーズ株式会社 |
| ●ハウスウェルネスフーズ株式会社 | ●ハウスフーズホールディング USA Inc. |
| ●ハウス物流サービス株式会社 | ●ハウスフーズアメリカ Corp. |
| ●株式会社ハウス食品分析テクノサービス | ●上海ハウス食品有限会社 |
| ●ハウスあいファクトリー株式会社 | ●上海ハウスカレーココ壱番屋レストラン有限会社 |
| ●サンサプライ株式会社 | ●台湾カレーハウスレストラン株式会社 |
| ●ハインネット株式会社 | ●韓国カレーハウス株式会社 |

持分法適用関連会社（6社） ●国内会社 ●海外会社

- 株式会社ヴォークス・トレーディング
- 株式会社壱番屋
- サンヨー缶詰株式会社
- イチバンヤ USA Inc.
- 壱番屋香港有限会社
- 株式会社ジャワアグリテック

株式の状況

(2011年3月31日現在)

発行済株式総数 106,765,422株
発行可能株式総数 391,500,000株
株主総数 49,657名
1単元の株式数 100株

《2011年3月期配当金》

	1株当たり配当金
第2四半期末	11円00銭
期末	11円00銭
年間	22円00銭

大株主

(2011年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ハウス興産株式会社	12,585,616	11.79
株式会社HKL	6,000,000	5.62
株式会社三井住友銀行	3,668,027	3.44
財団法人浦上食品・食文化振興財団	2,872,200	2.69
浦上節子	2,731,569	2.56
味の素株式会社	2,693,543	2.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,514,300	2.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,486,800	2.33
日清食品ホールディングス株式会社	2,463,400	2.31
日本生命保険相互会社	2,306,010	2.16

(注)持株比率は、自己株式(1,278株)を控除して算出しております。

株主優待

毎年3月31日現在、当社株式100株以上を所有されている株主さまを対象に、下記の基準により当社グループの製品詰合わせを贈呈いたします。

100株以上1,000株未満

[1,000円相当の詰合わせ]



1,000株以上

[3,000円相当の詰合わせ]

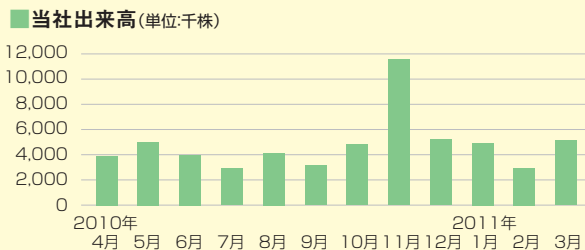
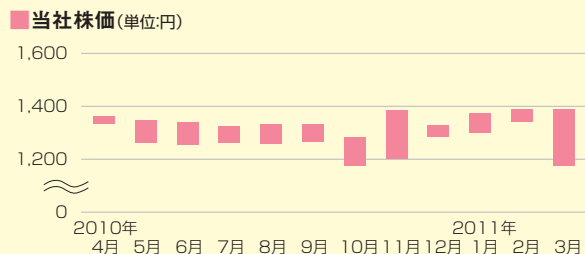


※2011年3月31日現在の株主さまに贈呈した株主優待製品です。

株主メモ

- **事業年度** 4月1日から翌年3月31日
- **中間配当制度** あり
- **定時株主総会** 毎年6月開催
- **株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関** 住友信託銀行株式会社
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
- **株主名簿管理人事務取扱場所** 住友信託銀行株式会社 証券代行部
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
- **【郵便物送付先】** 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- **【電話照会先】** ☎ 0120-176-417
- **公告の方法** 電子公告により、当社ホームページ <http://housefoods.jp> に掲載して行います。
ただし、電子公告を行えない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
- **上場証券取引所** 東京・大阪
- **証券コード** 2810
- **ハウス食品株主さま窓口** ハウス食品株式会社 総務・法務部 総務課
〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号
電話 (06) 6788-1214

株価・出来高の推移 〈東京証券取引所〉



ハウス食品株式会社

〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号
電話 (06) 6788-1231 (代表)
<http://housefoods.jp>

○株式に関するお手続きについて

株式に関するお手続きのお問い合わせ先は、下記のとおりです。

証券会社の口座に記録された株式

【お手続き、ご照会の内容】

【お問い合わせ先】

- 単元未満株式の買取請求
- 届出住所・姓名などのご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更

口座を開設されている
証券会社

- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- 株式事務に関する一般的なお問い合わせ

住友信託銀行株式会社
証券代行部

☎ 0120-176-417

特別口座に記録された株式

【お手続き、ご照会の内容】

【お問い合わせ先】

- 単元未満株式の買取請求
- 特別口座から証券口座への振替請求
- 届出住所・姓名などのご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更
- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- 株式事務に関する一般的なお問い合わせ

住友信託銀行株式会社
証券代行部

☎ 0120-176-417

特別口座について

株券電子化実施(2009年1月5日)に際し、証券会社等に口座を開設し、証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまのお名前、ご住所などのデータは当社が住友信託銀行に開設した「特別口座」に記録されております。



この報告書は、環境に優しい
植物油インキを使用して印刷
しています。